

研究種目：基盤研究 (B) 海外

研究期間：2007～2010

課題番号：19402027

研究課題名 (和文) 韓国の産業技術革新における日本人エンジニアの役割に関する調査研究

研究課題名 (英文)

Research on the Role of Japanese Engineers in Korean Industrial Innovation

研究代表者

深川博史 (FUKAGAWA HIROSHI)

九州大学大学院経済学研究院・教授

研究者番号：30199153

研究代表者の専門分野：韓国経済論

科研費の分科・細目：3605

キーワード：韓国、産業技術革新、日本人エンジニア

1. 研究計画の概要

韓国では近年、産業技術革新のテンポが急であり、さまざまな技術分野で、日本企業を追い上げている。かつて日本企業が優位を占めた分野で、なぜ韓国企業が日本企業に追いつき、日本企業との競争で逆転を成し遂げたのか、従来の研究では明瞭ではない。

また、多くの先端分野において、韓国企業が日米の競合メーカーに短期間にキャッチアップしたが、それを可能にした産業技術革新の背景については従来、必ずしも明らかにされていない。

本研究ではこういう問題について、韓国企業で働く日本人エンジニアの役割が大きかったのではないかという仮説を立てている。すなわち、産業技術革新の過程における日本人エンジニアの存在に着目し、彼らの関与無くしては、短期間の技術革新は困難ではなかったかと考えている。技術開発のスピード要因として、外国人技術者の役割に注目するものであり、日本からの技術導入の多い韓国については、特に日本人エンジニアの役割が大きいと推測される。

2. 研究の進捗状況

本研究は、韓国の産業技術革新への日本人エンジニアの役割を明らかにするために、韓国企業を訪問して、日本人エンジニアからヒアリングを実施することを当初の目的とした。そのために、研究準備段階においては、様々なルートを通じて、日本人エンジニアとの接触を試みた。しかし、計画開始後しばらくの間は、適当なヒアリング対象が、なかなか見つからず、韓国企業に現役として勤務する日本人エンジニアからのヒアリングは、容

易でないことが判明した。

そのため、ヒアリング対象を当面の間、現役として韓国企業に勤務する方だけではなく、過去に技術移転に関与した日本人エンジニアに拡大することとした。これらの方々からのヒアリング内容は、過去の話が中心となったが、韓国企業との接触到に経験豊富な、熟練の技術者からのヒアリングでは、韓国の技術風土などについて、歯に衣を着せない、鋭い意見も聞かれた。結果的に、過去と現在の技術移転の比較、技術革新への関与の状況について有益な意見を聴取することができた。

韓国企業に勤務する現役の日本人エンジニアについては、技術移転に関与した方々からのヒアリングを継続しながら、様々なルートを通じて探し続けた。その結果、プロジェクト開始後、しばらくして、サムソン中央研究所の常務という、本研究テーマに最適の方を探し当てた。この方については、1度目は会社の外で面談し、一定の期間を置いて、2度目は会社の中でヒアリングを行った。さらに3度目は、日本に招聘して、この方を囲み研究メンバーでワークショップを開催した。この方からの、ヒアリングの内容は刺激的で、本研究には極めて有益なものであった。

この方の他にも、サムスン建設、サムスン電子の方にコンタクトを取り、双方ともに、ヒアリングの承諾を得た。ソウルを訪問し、長時間にわたってインタビューを実施し、成果は大であった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

その理由は、優れたヒアリング対象者と興味深い情報に接して、当初に予想されたより

も、多くの資料を収集できたことである。当初は、ヒアリング対象を探すことに相当な困難が予想された。ヘッドハンティングされた日本人エンジニアは、面談困難であり、面談できたとしても、なかなか口を開いてくれないと思われた。実際に、研究当初は十分な成果があがらなかったが、粘り強く、コンタクトを取り続けることで、相手側の日本人エンジニアの信頼を得ることに成功し、最終的に、貴重なヒアリング資料を得ることが出来た。

これまでの研究調査のなかで、最大の収穫は、サムスン中央研究所の方を日本に招聘して、この方を囲んだ研究会を実施したことである。「サムスンにおける事業戦略と技術経営」と題して、在韓日本人エンジニアから見た、サムスンの事業経営について、詳細な報告を行って頂いた。研究会は、九州大学のワークショップとして開催し、本プロジェクトの研究分担者を中心に討論を行った。討論は、長時間に及び、本研究プロジェクト遂行にとっての収穫はきわめて大きかった。

本プロジェクトのヒアリング内容には、秘匿内容が多く含まれていることから、ヒアリング内容公表に際しては、個人名はすべて伏せた上で草稿を作成し、精査後に、公表の準備を進めた。そのため、ヒアリング実施から、内容公表までには、時間差が生じている。

4. 今後の研究の推進方策

従来の調査から、日本企業からヘッドハンティングされた技術者たちが、様々な局面で韓国の技術革新に関与したことが明らかとなった。ただ、秘匿事項が多いため短期間の調査ではヒアリング可能な内容に限界がある。さらに時間をかけてヒアリング対象者との信頼関係を維持することで、より多くの情報を入手可能となる。加えて、日本人技術者を雇用した韓国企業側からのヒアリングを行うことで、日本人技術者の役割を、より客観的・多面的に捉えることが可能となる。以上の理由から、次年度以降は、ヒアリング対象を韓国企業の経営側にまで拡大して、より多面的な資料を収集する計画である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

- ①深川博史、「21世紀アジアのお雇い外国人-在韓日本人エンジニアの経験と技術風土の日韓相違-」、『韓国研究センター年報』、第10巻、2010年、7-16頁、有り。
- ②吉岡英美、「韓国半導体産業の『財閥』の発展とその変容-サムスン電子の事例-」『韓国経済研究』第8巻、2009年、23-35頁。
- ③加峯隆義、「韓国企業に在籍する日本人技

術者の役割」、深川博史編『韓国経済研究』第8巻、2009年、51-59頁。有り。

④吉岡英美、「世界市場の獲得からみた韓国半導体産業の持続的発展-サムスン電子の標準化活動を中心に-」『アジア研究』、第54巻3号、2008年、有り。

⑤吉岡英美、「韓国半導体産業の競争力-事業戦略と技術を通じたキャッチアップ後の優位性-」奥田聡・安倍誠編『韓国主要産業の競争力』所収、アジア経済研究所、2008年、有り。

⑥加峯隆義、「日本人技術者による韓国企業への技術移転」、深川博史編『韓国経済研究』第7巻、2008年、75-85頁。有り。

〔学会発表〕(計3件)

①吉岡英美、「韓国半導体産業の『財閥』の発展過程-サムスン電子の事例-」、日本台湾学会第11回学術大会、2009年6月、日本大学。

②S氏(サムスン中央研究所常務)、「サムスンにおける事業戦略と技術経営」、在韓日本人エンジニアを招聘しWS開催、2008年11月28日、九州大学経済学研究院。

③吉岡英美、「韓国半導体産業の発展と技術者」、「技術者と産業発展」研究会、2009年1月30日、アジア経済研究所

〔図書〕(計3件)

吉岡英美、有斐閣、『韓国の工業化と半導体産業-世界市場におけるサムスン電子の発展-』、2010年、xiv+237頁。

深川博史編『韓国経済研究』第8巻、2009年、1-77頁。

深川博史編『韓国経済研究』第7巻、2008年、1-88頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕